

- ・たまごの付加価値を高め、安心かつ安全なたまごを安定的に供給し続ける
- ・検査や包装工程の自動化や包装工場を集約することで輸送効率を高める
- ・ゆで卵や温泉卵、液卵などの加工品を新規に開発して、国内外の販売量を増やす

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

メガトレンド

- ・海外輸出の増加（殻付き卵、液卵、粉卵など）。
- ・国内中食需要増加で、ゆで卵などの販売伸びる。
- ・安定供給の重要性増す（飼料価格高騰で鶏卵生産者苦境、市場需要変動、鳥インフルなど）。

目指す姿とビジネスモデル

市場需要と連動した効率的で安定した生産体制の確立

- ・**検査の自動化**：検査プロセスの自動化/DXを進める。
- ・**包装工場の集約による包装業務・製品輸送の効率化**：従来は検査・包装工場が養鶏場に隣接しており、規模の小さい工場が多数あり、不効率であった。大規模包装工場を市場に近い位置に集約し、包装業務と物流を効率化する。
- ・**新商品開発**：産直事業者である当社が、市場ニーズにあった卵加工製品を多数販売することで、鶏卵生産者のたまご生産量を確約できる（業界は鶏卵生産者、卸売、販売店と分断しており、マーケットアウトであったが、これをマーケットインに変革する）。

<新規商品>

（国内）味付きゆで卵、温泉卵など

（海外）殻付き卵、液卵など

会社全体の売上成長目標（直近決算～2031年）

- ・売上高成長率9.6%
- ・売上高増加額324億円
（25年1月期442億/31年1月期767億）

会社全体の賃上げ目標

- ・7.0%（直近事業年度～基準年度）
- ・2.0%（基準年度～事業化報告3年目）

外発的動機

- ・鳥インフルエンザや飼料価格の高騰など、養鶏業に大きな影響を与える外部的要因が頻繁に発生。
 - ・農業従事者の高齢化に伴う、継続的な養鶏事業者数の減少。
 - ・卵不足と卵過剰の状況が頻繁に起こり適切な市場を保てていない。
- ➡鶏卵生産者→検査・包装→問屋・卸→加工業者・小売と、生産者と消費者が分断されたシステムでは、市場ニーズが生産者に伝わらず、卵不足と卵過剰が頻繁におこる。
- ➡当社は国内最大の鶏卵販売業者であり、また鶏卵生産から販売まで扱う産直事業者として業界の問題を解決する立場にある。

内発的動機

- ・過去の経営方針では、生産量拡大に注力しており、効率化のための設備投資が十分でなかった。
 - ・一昨年より続く、ウクライナ情勢に伴う国際危機が飼料価格を急騰させたことでコストが高み、資金繰りが悪化したことから、どのような市況であっても利益が出せる体制に転換することを強く意識した。
 - ・一方で、当社の主力商品である「森のたまご」が市場に定着して以降は、マーケティング戦略を駆使した差別化をしてこなかったため、単純な価格競争が主な差別化手段となっており、独自の戦略で利益を上げることが困難な状況であった。
- ➡生産の自動化（例：手作業の検査を自動化する）。
- ➡製品輸送の効率化。
- ➡新製品販売による価格競争からの脱却。

- ・需要＜供給・海外市場拡大・他社からの卵受入拡大により数量増が確実である。重点拠点の生産性を大幅に向上させる必要がある
- ・重点拠点への検査、洗浄・選別・包装工程への最新設備導入と建物改装による動線改善・能力向上→生産性向上・生産能力向上の実現

補助事業の
背景・目的

- ・【背景】需要＜供給・海外市場拡大・他社からの卵受入拡大により数量増が確実である。
重点拠点の生産性を大幅に向上させる必要がある。
- ・【目的】検査工程、洗卵選別包装工程の高度化と建屋改装・設備配置改善による生産性改善
- ・【施策】以下重点拠点の生産性を大幅に改善する。
岡山工場：洗卵選別包装と検査工程への最新設備導入と自動化・効率化。建屋改装。
色麻工場・関西工場・伊賀工場：洗卵選別包装工程への最新設備導入と自動化・効率化。建屋改装。

事業費
(補助額)

75億円
(25億円)

設備投資の
内容

＜補助事業/投資内容＞

★検査の自動化：検査プロセスの自動化/DXを進める。

★工場の集約による包装業務・製品輸送の効率化：従来は検査・包装工場が養鶏場に隣接しており、規模の小さい工場が多数あり、不効率であった。重点拠点において市場に近い位置に大規模工場として集約し、包装業務と物流を効率化する。

■岡山工場：建物改装工事、検査設備（バーコンベアライン）、洗卵選別包装自動化設備

■色麻工場：建物改装工事、洗卵選別包装自動化設備

■関西工場：建物改装工事、洗卵選別包装自動化設備

■伊賀工場：建物改装工事、洗卵選別包装自動化設備

＜補助事業外＞

■在庫管理・ゲートでの識別・検査・包装・出荷までデータ管理実施を進めている。（伊賀工場）

→全工場で展開を計画する。



目標値

項目	2028年1月期（基準年度）	2031年1月期（基準年度+3年後）
労働生産性	658万円/人	1,291万円/人（年平均上昇率+25.2%）
岡山：従業員1人あたり給与支給総額	344万円/人	422万円/人（年平均上昇率+7.0%）
色麻：従業員1人あたり給与支給総額	344万円/人	422万円/人（年平均上昇率+7.0%）
関西：従業員1人あたり給与支給総額	344万円/人	422万円/人（年平均上昇率+7.0%）
伊賀：従業員1人あたり給与支給総額	344万円/人	422万円/人（年平均上昇率+7.0%）
岡山：役員1人あたり給与支給総額	—	—（年平均上昇率+-%）
色麻：役員1人あたり給与支給総額	—	—（年平均上昇率+-%）
関西：役員1人あたり給与支給総額	—	—（年平均上昇率+-%）
伊賀：役員1人あたり給与支給総額	—	—（年平均上昇率+-%）
岡山：補助事業に係る従業員数(役員含む)	165人	180人
色麻：補助事業に係る従業員数(役員含む)	176人	196人
関西：補助事業に係る従業員数(役員含む)	45人	80人
伊賀：補助事業に係る従業員数(役員含む)	74人	94人